

県立高等学校の在り方検討委員会における入試制度の検討について

1 専門部会の設置について

「県立高等学校の在り方検討委員会設置要綱」（第1回検討委員会 資料1）第5条の規定に基づき、高校入試制度の在り方に関する専門部会を設置。

2 専門部会委員名簿

※五十音順

	職 名	氏 名
1	高知県立檮原高等学校 校長	足達 昇
2	高知市教育委員会 学校教育課 学力向上指導監	岩城 多加仁
3	高知県立高知工業高等学校 校長	北村 晋助
4	元 高知県立高知西高等学校 校長	竹村 謙
5	宿毛市立小筑紫中学校 校長	森 和也
6	室戸市立佐喜浜中学校 校長	來 節子

3 主な日程等（令和5～6年度）

日程		検討委員会	専門部会
9月	19日	<第1回> ○県立高等学校の在り方に関する基本的な考え方の確認 ○県立高等学校の在り方に関する検討のポイントの確認	
11月	14日	<第2回> ○現計画の取組及び現状等について ○検討ポイントの整理について	
1月	16日	<第3回> ○学校の適正規模と適切配置について ○課程・学科の適切配置について ○学校の魅力化・特色化について	
1月	30日		<第1回> ○現行の入試制度における課題等について
2月	20日	<第4回> ○学校の適正規模と適切配置について ○課程・学科の適切配置について ○学校の魅力化・特色化について ○入試制度の在り方について	
3月			<第2回>（予定） ○入試制度の改善の方向性等について
4月		<第5回>（予定） ○入試制度の在り方について ○中間報告とりまとめ 他	
6月		<第6回>（予定）	
7月		<第7回>（予定） ○報告書とりまとめ	
12月		次期計画策定、新入試制度の公表	

入試制度の在り方に関する検討のポイント等について

1 高知県公立高等学校入学者選抜制度の改善の流れについて (→ 資料 3 - 3)

年度	1 月	2 月	3 月		
～H17	推薦入学 定員 50%上限 <input type="checkbox"/> 報告書 <input type="checkbox"/> 推薦書 <input type="checkbox"/> 面接 <input type="checkbox"/> 適性検査又は作文		第1次募集 欠員数 <input type="checkbox"/> 報告書 <input type="checkbox"/> 面接 <input type="checkbox"/> 5教科の学力検査	第2次募集 欠員数 <input type="checkbox"/> 報告書 <input type="checkbox"/> 面接 <input type="checkbox"/> 第1次募集の 学力検査の結果	
H18 ～H21	前期選抜 (自己推薦型) 定員 50%上限 <input type="checkbox"/> 調査書 <input type="checkbox"/> 志願理由書 <input type="checkbox"/> 学校独自の検査		後期選抜 (一般入試型) 欠員数 <input type="checkbox"/> 報告書 <input type="checkbox"/> 面接 <input type="checkbox"/> 5教科の学力検査	再募集 欠員数 <input type="checkbox"/> 報告書 <input type="checkbox"/> 面接 <input type="checkbox"/> 3教科の 基礎学力検査	
H22 ～H26		前期選抜 (一般入試型) 定員 80%上限 <input type="checkbox"/> 調査書 <input type="checkbox"/> 志願理由書 <input type="checkbox"/> 面接 <input type="checkbox"/> 5教科の学力検査	後期選抜 (特色化選抜型) 欠員数 <input type="checkbox"/> 報告書 <input type="checkbox"/> 面接 <input type="checkbox"/> 3教科の学力検査	再募集 欠員数 <input type="checkbox"/> 報告書 <input type="checkbox"/> 面接 <input type="checkbox"/> 3教科の 基礎学力検査	
H27～			A 日程 全・昼の定員 100% <input type="checkbox"/> 調査書 <input type="checkbox"/> 志願理由書 <input type="checkbox"/> 面接 <input type="checkbox"/> 5教科の学力検査	B 日程 全・昼の欠員数 定・夜の定員 100% <input type="checkbox"/> 調査書 <input type="checkbox"/> 面接 <input type="checkbox"/> 学力検査	C 日程 定・夜の欠員数 <input type="checkbox"/> 学校の定める 方法

※ 現行の高知県公立高等学校入学者選抜制度の概要について (→ 資料 3 - 4)

2 現行の入試制度における課題等について (→ 資料 3 - 5 ・ 資料 3 - 6)

- 全ての公立高校がほぼ同じ選抜方法で実施しているため、各校のスクール・ポリシー (今後、策定及び公表予定) に十分対応できる入試制度となっていない。
- 入試日程が3月に集中していることから、県内の私立高校や高等専門学校、県外の高校等にすでに進学先が決定し、公立高校の受検につながらない場合がある。
- 県外からの志願については、他県が3月以前に入試を実施することが多く、本県の受検が敬遠される傾向にある。
- 多様な生徒の可能性を伸ばすことを視野に入れた入試制度の見直しが必要である。

3 入試制度の在り方に関する検討のポイントについて

(1) 学校の魅力化・特色化を踏まえた入試制度の導入について

ア 「特色化選抜 (仮称)」について

イ 不登校や特別支援、日本語が母語ではない生徒等に関する選抜について

(2) 県外 (及び海外) 生徒の受入れの拡充について

(3) 入試の実施時期の見直しについて

高知県公立高等学校入学者選抜制度の改善の流れについて

資料3-3

◆印：課題 ◇印：改善点

	推薦入学	課題	第1次募集	課題	第2次募集	課題	通学区域	課題
平成17年度 入学者選抜まで	<募集人員> ○ 入学定員の50%を上限とする。 <選考資料> ○ 中学校からの報告書、推薦書、面接、適性検査又は作文の結果に基づき選抜。 <実施時期> ○ 1月下旬検査 ○ 2月上旬合格発表	◆ 推薦入学において推薦基準が抽象的で数値等の明確な基準ではないため、中学校から推薦する際に指導が困難であったり、学校により対応に違いがみられたりした。	<募集人員> ○ 入学定員から推薦入学の合格者を差し引いた数。 <選考資料> ○ 中学校からの報告書、5教科の学力検査、面接の結果に基づき選抜。 <実施時期> ○ 3月上旬検査 ○ 3月中旬合格発表		<募集人員> ○ 第1次募集までで入学定員に満たない数。 <選考資料> ○ 中学校からの報告書、面接、第1次募集の学力検査の結果に基づき選抜。 <実施時期> ○ 3月中旬検査 ○ 3月下旬合格発表	◆ 第2次募集は第1次募集の学力検査の結果を引き継ぐ形になっているため、第1次募集を受検していない生徒は、第2次募集に出願できない。	① 東部学区、高知学区、高吾学区、幡多学区の四つの通学区域。通学区域があるのは普通科高校(高知東高校の総合学科を含む。)であり、専門学科及び総合学科は全県一区。 ② 学区外枠は、普通科のみを設置する高校は入学定員の6.65%、専門学科を併置する高校は入学定員の3.8%を超えないものとする。	◆ 交通機関の発達によって通学可能な地域が広がり、高校の規模を含めて、各学校の特色が明確になってきていることから、通学区域を見直す必要がある。
改善点	◇ 自己推薦型とし、中学校長の推薦によらないものとした。				◇ 再募集でも基礎学力検査などの検査を課し、再募集からでも出願できることとした。		◇ H13の地方教育行政の組織及び運営に関する法律の改正により、通学区域の設定は教育委員会が判断できるようになったことを受けて、生徒の「行きたい学校選び」を重視した入試制度の改善が必要である。 ◇ 全国と比べて、高知県の学区外枠は入学定員に対する割合が少ない。	
平成18年度 入学者選抜から 平成21年度 入学者選抜まで	<募集人員> ○ 入学定員の50%を上限とする。 <選考資料> ○ 中学校からの調査書、志願理由書、学校独自の3教科までの教科検査や作文、実技、面接などの検査の結果に基づき選抜。 ○ 教科検査の実施校 H18:7校、H19:10校、H20:13校、H21:17校 <実施時期> ○ 1月下旬検査 ○ 2月上旬合格発表	◆ 学力検査というハードルがないまま高校に入学してくるため、中学校までの学習内容が定着していない者が多くなった。 ◆ 前期選抜の志願率が高くなり、不合格体験をすることで、生徒の学習意欲や受検意欲を維持することが難しくなった。 ◆ 特定の高校に志願者が集中する傾向が強くなった。	<募集人員> ○ 入学定員から前期選抜の合格者を差し引いた数。 <選考資料> ○ 中学校からの報告書、5教科の学力検査、面接の結果に基づき選抜。 <実施時期> ○ 3月上旬検査 ○ 3月中旬合格発表	◆ 前期選抜実施後、後期選抜までの期間が長いこと、さらに、前期選抜の合格者が増加したことにより、後期選抜までの間に合格者と不合格者が教室の中に混在することから、中学校での指導が困難になった。 ◆ 前期選抜で多くの志願者を集めた高校でも、後期では出願を避けられ、定員割れが起こるようになった。 ◆ 後期選抜には、「行ける学校」選びの傾向が残っている。	<募集人員> ○ 入学定員から後期選抜までの合格者を差し引いた数。 <選考資料> ○ 中学校からの報告書、3教科の基礎学力検査、面接の結果に基づき選抜。 <実施時期> ○ 3月中旬検査 ○ 3月下旬合格発表		① 東部学区、高知学区、高吾学区、幡多学区の四つの通学区域。通学区域があるのは普通科高校(高知東高校の総合学科を含む。)であり、専門学科及び総合学科は全県一区。 ② 学区外枠は、入学定員の10%を超えないものとする。	◆ 通学区域は、真に中学生が「行きたい学校」を主体的に選択できるよう、撤廃することが望ましい。 ◆ 高知市内の高校への志願者が増加することが予想されるため、高知市周辺の高校に影響が出てくる可能性がある。 ◆ 遠距離通学等の生徒が増えることも予想され、保護者の経済的負担が増すことが考えられる。 ◆ 高知市内の生徒が、周辺の学校に進学することが予想される。
改善点	◇ 5教科の学力検査を課すこととした。 ◇ 募集人員を80%にすることで、不合格体験者が減少するよう配慮した。		◇ 受験者の負担を軽減するために、学力検査を3教科とした。 ◇ 前期選抜の実施時期を遅くして、後期選抜までの期間を短くした。			◇ 高知県の全ての生徒が、それぞれの興味・関心、適性・進路希望に応じた高校を選択できるようにするためには、通学区域を撤廃する必要がある。 ◇ 通学区域を撤廃するに際して、デメリットをできる限り補完しつつ、段階的に進める方法をとることを考える。		
平成22年度 入学者選抜から 平成26年度 入学者選抜まで	<募集人員> ○ 入学定員の80%を上限とする。 <選考資料> ○ 中学校からの調査書、志願理由書、5教科の学力検査、面接等の結果に基づき選抜。 <実施時期> ○ 2月上旬検査 ○ 2月中旬合格発表	◆ 前期選抜合格発表から後期選抜入試日までの期間に、合格者と不合格者が教室の中に混在することから、クラスが落ち着かない期間があり、中学校での学力の定着が十分でない状況があった。 ◆ 前期選抜で不合格となる生徒がクラス単位では少数であることから、精神的なプレッシャーが大きく、後期選抜や再募集に取り組む気持ちを保ちにくい状況があった。	<募集人員> ○ 入学定員から前期選抜の合格者を差し引いた数。 <選考資料> ○ 中学校からの報告書、3教科の学力検査、面接の結果に基づき選抜。 <実施時期> ○ 3月上旬検査 ○ 3月中旬合格発表	◆ 前期選抜合格発表から中学校卒業までの期間に、合格者と不合格者が教室の中に混在することから、中学校の学級経営に支障があった。 ◆ 後期選抜の募集割合が少ないことから、中学生が後期選抜は狭き門という印象を持ち、志願倍率の高い高校に挑戦しにくい状況があった。	<募集人員> ○ 入学定員から後期選抜までの合格者を差し引いた数。 <選考資料> ○ 中学校からの報告書、3教科の基礎学力検査、面接の結果に基づき選抜。 <実施時期> ○ 3月中旬検査 ○ 3月下旬合格発表		① 平成22年度入学者選抜から東部学区、高吾学区、幡多学区の三つの通学区域は撤廃する。 ② 高知学区は平成24年度入学者選抜から撤廃する。 ③ 影響緩和期間として平成22年度入学者選抜では学区外枠を15%、平成23年度入学者選抜では20%と段階的に拡大する。	◆ 地域の高校では、地域の生徒数が減少していることに加え、交通機関の発達に伴う通学圏の拡大により、旧通学区域外の高校に挑戦しやすくなったことから、志願者が減少した学校がある。
改善点	◇ 全ての検査の実施を3月とし、各課程の受検機会を2回とするとともに、志願先変更期間を設定した。 ◇ 全日制・昼間部の募集人員を100%とし、A日程では定時制・夜間部の募集を行わないこととした。		◇ 定時制・夜間部は、B日程から募集を行うこととした。					
平成27年度 入学者選抜から	A日程		B日程		C日程		通学区域	
	<募集人員> ○ 全日制・昼間部の入学定員の100%。 <選考資料> ○ 中学校からの調査書、志願理由書、5教科の学力検査、面接等の結果に基づき選抜。 <実施時期> ○ 3月上旬検査 ○ 3月中旬合格発表		<募集人員> ○ 全日制・夜間部は、入学定員からA日程の合格者を差し引いた数。 ○ 定時制・夜間部は、入学定員の100%。 <選考資料> ○ 中学校からの調査書、学力検査(全日制・昼間部は5教科、定時制・夜間部は3教科)、面接等の結果に基づき選抜。 <実施時期> ○ 3月下旬検査 ○ 3月下旬合格発表		<募集人員> ○ 定時制・夜間部の入学定員からB日程の合格者を差し引いた数。 <選考資料> ○ 学校の定める方法により選抜。 <実施時期> ○ 3月末検査 ○ 3月末合格発表		なし	

現行の高知県公立高等学校入学者選抜制度の概要について

1 入試の実施時期（令和6年度入試）

選抜方法	12月	1月	2月	3月
公立 A日程等		県外手続	出願 変更	3/5・6 検査 3/14 発表
公立 B日程等			県外手続	出願 変更 3/22 検査 3/26 発表
公立 C日程				出願 3/27 検査 3/28 発表
私立 推薦入試	出願	1/11 検査 1/12 発表		
私立 一般入試	出願	1/19 検査 1/20 発表		
高専 推薦選抜	出願	1/13 検査 1/19 発表		
高専 学力検査選抜			出願 2/11 検査 2/16 発表	
高専 第2次募集A			出願 2/25 検査 2/27 発表	
高専 第2次募集B			出願	3/2 検査 3/4 発表

※ 上記の公立高等学校のC日程、私立高等学校の推薦入試及び一般入試については、主な日程を示す(学校により異なる)。
 ※ 「県外手続」とは、他の都道府県の中学校等の在学者又は出身者が本県の公立高等学校を志願する場合に、事前に行う手続の期間を示す。
 ※ 「変更」とは、出願後に志願先の変更ができる期間を示す。なお、志願先変更は、所定の期間内に1回に限り可能である。

2 県外からの志願

	対象校 (志願することができる高等学校)	
(1) 家族での転居 (保護者の転勤等)	34校	全ての公立高等学校
(2) 隣接県からの通学	5校	檮原、四万十、中村西土佐分校、宿毛工業、宿毛 (全日制及び定時制)
(3) 身元引受人制度の活用 (全日制のみ)	13校	<令和5年度入試まで> 室戸、嶺北、高知追手前吾北分校、高知海洋、須崎総合 (機械系学科造船専攻のみ)、檮原、四万十、大方、中村西土佐分校 <令和6年度入試から追加> 城山、山田 (グローバル探究科、ビジネス探究科)、岡豊 (普通科 (芸術コース)、普通科 (体育コース))、幡多農業 ※ 下線部は、「地域みらい留学」に掲載している高等学校

<身元引受人制度について>

- 保護者が高知県に居住しなくても、親戚の方など身元引受人になってくれる高知県在住の方がいれば、高知県教育委員会 (県立高等学校を志願する場合) から入学志願承認を受け、受検することができる制度のこと。
- 親戚の方などがいない志願者には、身元引受人を紹介する高等学校もある。

3 入試の選抜方法等

○印……全ての高等学校に該当するもの
 △印……学校や学科・科等によるもの
 ×印……全ての高等学校に該当しないもの

対象	募集定員	実施時期	選抜方法	合格者の決定に係る検査内容等						志願先変更
				志願理由書	調査書	学力検査	面接	実技検査	その他の検査	
全日制 昼間部	入学定員の100%	3月上旬	A日程	○	○	○	○	△	×	○
			連携型中高一貫教育校に係る特別選抜	○	○	○	○	△	×	×
			チャレンジ選抜A	○	○	○	○	△	×	×
定時制 夜間部	入学定員を満たすために必要な人数	3月下旬	B日程	×	○	○	○	△	×	○
			成人特別選抜	×	○	○	○	△	×	○
	入学定員を満たすために必要な人数	3月末	C日程	学校の定める方法						

(1) 学力検査について (A日程等及びB日程)

- ◇ 全日制・昼間部……5教科 (国語、社会、数学、理科、英語)
- ◇ 定時制・夜間部……3教科 (国語、数学、英語)

(2) 連携型中高一貫教育校に係る特別選抜について

<実施校> (4校)

連携型高等学校	連携型中学校
嶺北高等学校	本山町立嶺北中学校, 土佐町立土佐町中学校
檮原高等学校	檮原町立檮原中学校, 津野町立東津野中学校
四万十高等学校	四万十町立大正中学校, 四万十町立十川中学校
清水高等学校	土佐清水市立清水中学校

※ 連携型中高一貫教育校において、連携型高等学校を該当する連携型中学校から志願する場合は、原則としてこの選抜方法によるものとする。

(3) チャレンジ選抜Aについて

<実施校> 高知丸の内高等学校の普通科のみ

<A日程とチャレンジ選抜Aとの違い>

選抜方法	『入学志願者取扱要領』において例年定めている内容
A日程	調査書中の「各教科の学習の記録」は、合計して取り扱わなければならない。
チャレンジ選抜A	調査書における「各教科の学習の記録」及び「出欠の記録」については、選抜資料としない。

(4) 成人特別選抜について

<検査内容>

学校、学科・科の特性に応じて必要と認められる場合は、面接に加えてその他の検査を実施する。

県立高等学校の在り方検討委員会 第1回専門部会について

1 概要

日 時 令和6年1月30日(火)
開催方法 オンライン会議
議 題 現行の入試制度における課題等について

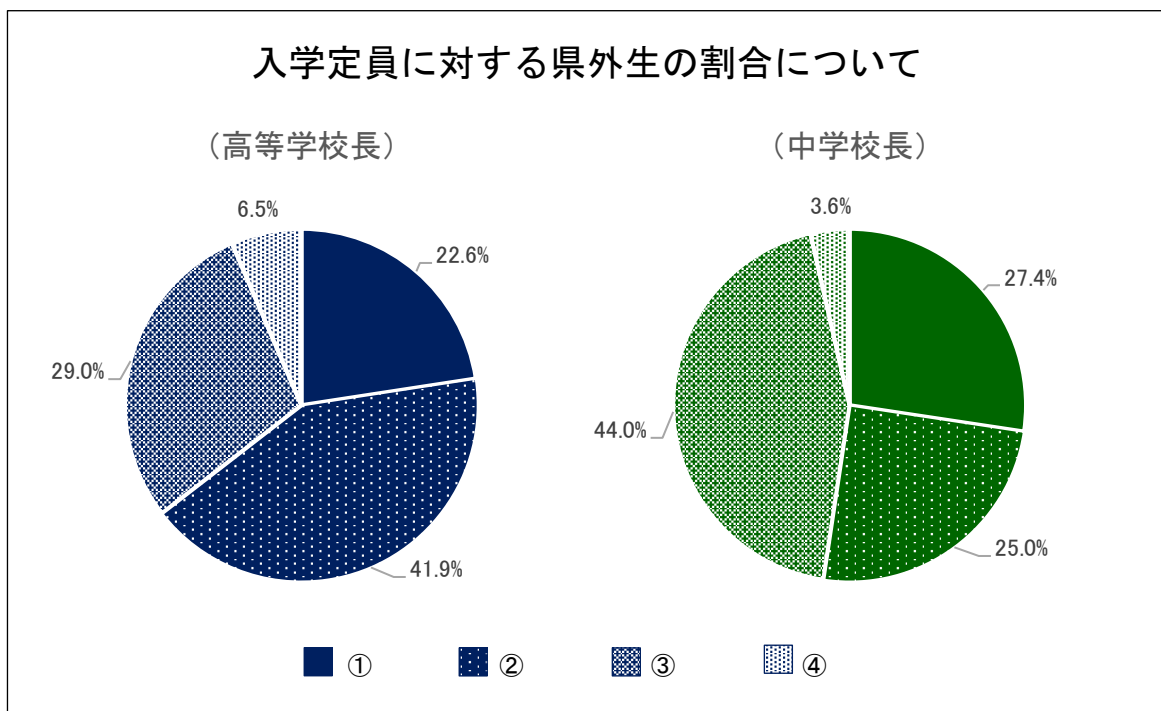
2 現行の入試制度の課題等に関する主な意見

- 中学校の生徒数に対して県立高等学校の入学定員が多いため、定員充足率が低い状況となっている。
- スクール・ミッションやスクール・ポリシーが各校から示される中、入試については全ての県立高等学校で共通の内容が実施されており、各校の特色を踏まえた生徒募集が十分にはできていない。
- 「地域みらい留学」(全国相互の他県への高校進学)への関心は高まっている傾向にあるが、本県の場合は、学校の魅力化・特色化を取り入れた入試制度ではないため、新たな方法を考えていかなければならない。
- 不登校や特別支援のニーズに応じた、そういう生徒の受入れとなる高等学校が必要ではないだろうか。
- 現在、中学校現場では、学力の定着と向上が求められているが、中には特性を抱えている生徒もいる。そういった子供たちを受入れて伸ばしていけるような体制が高等学校にほしいと思う。選考の基準も含めた入試制度の見直しを行うなど、高等学校に入ってから支援してもらいたい。
- 全ての子供たちの可能性を伸ばし、探究的な学びの中で、子供たちが自分の特性を理解しながら、自己選択し、主体的に学ぶ学校生活を送れるように、生徒を育成していけるとよい。学習指導要領で求められている資質・能力は全国学力・学習状況調査などで測られているが、学力調査の検査問題と高校入試の検査問題とでは、その目的や性格が異なることから、中学校の学習や学力の在り方と併せて、一体的に考えていくことも必要ではないか。
- 現行の入試制度では、生徒が、2番目に行きたいと考えている学校がA日程で定員を充足しB日程で生徒募集が行われなくなるのではないかと恐ろしく、A日程の段階で生徒が本当に行きたい学校にチャレンジすることが十分できていないところがある。
- 新たな入試制度を検討する場合、過去の入試制度では、早期の入試における募集人員の割合が大きすぎると、合格とならなかった者が、その後、非常にしんどくなったということがあったため、そういったことも踏まえて検討してはどうか。
- 入試日程については、中学校と高等学校とで意見に格差がある。中学校側は、現行の入試制度の日程に大きな変更は望んでいない。
- 現行の入試制度では、県内の私立高校や高等専門学校の入試が全て終わった後に公立高校の入試を行うという日程になっている。
- 高等学校側は、3月に入試日程が集中していることにより、時間をかけてじっくり検討するというよりは、短期間で全てを決定しなければならないという状況である。

県立高等学校の在り方についてのアンケート 調査結果
 (中高校長対象：概要版)

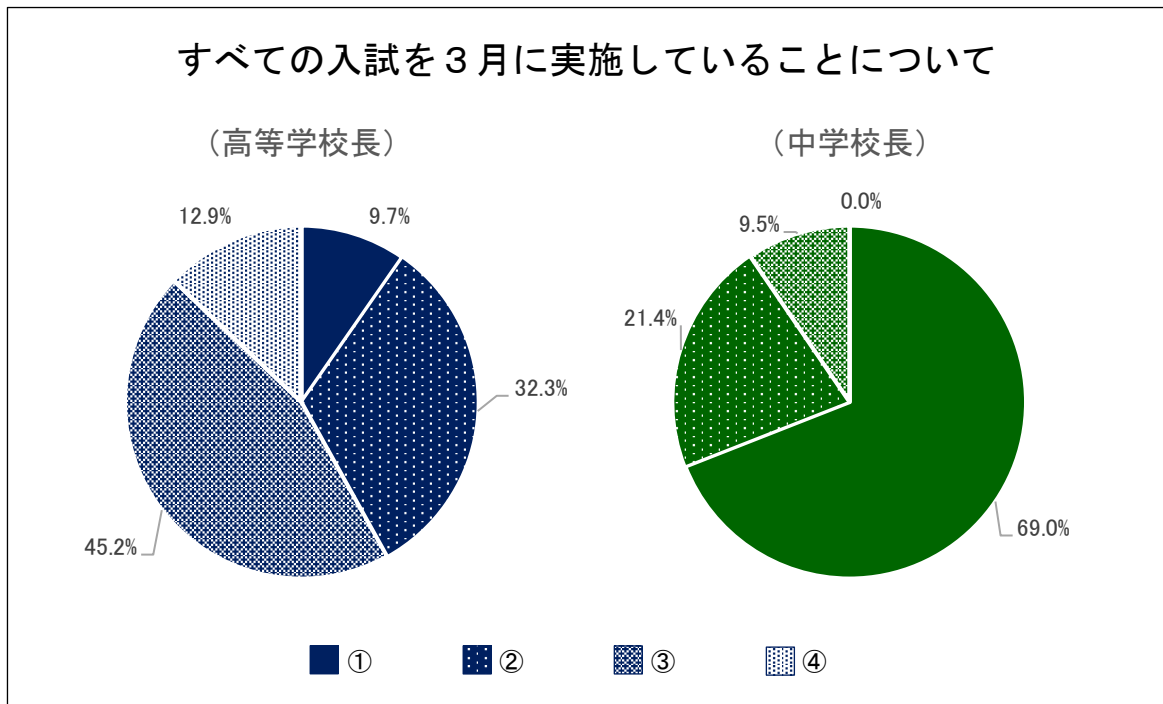
設問 1 県立高校の入学定員に対する県外生の割合（一家転住を除く）について、どう思いますか。ご自身の考えに最も近いものを1つ選んでください。

- ① すべての県立高校で、入学定員に対する県外生の割合（内数の比率）は特に定めずに、募集した方がよいと思う。
- ② 近年の志願者数や定員充足率等を踏まえたうえで、入学定員に対する県外生の割合（内数の比率）を定める県立高校と定めない県立高校とをそれぞれ決定し、募集した方がよいと思う。
- ③ すべての県立高校で、入学定員に対する県外生の割合（内数の比率）を決定した方がよいが、その割合については、近年の志願者数や定員充足率等を踏まえたうえで、学校により異なる割合とし、募集した方がよいと思う。
- ④ すべての県立高校で、入学定員に対する県外生の割合（内数の比率）を統一したうえで、募集した方がよいと思う。



設問2 公立高校入試のA日程、B日程、C日程をすべて3月に実施していることについて、どう思いますか。ご自身の考えに最も近いものを1つ選んでください。

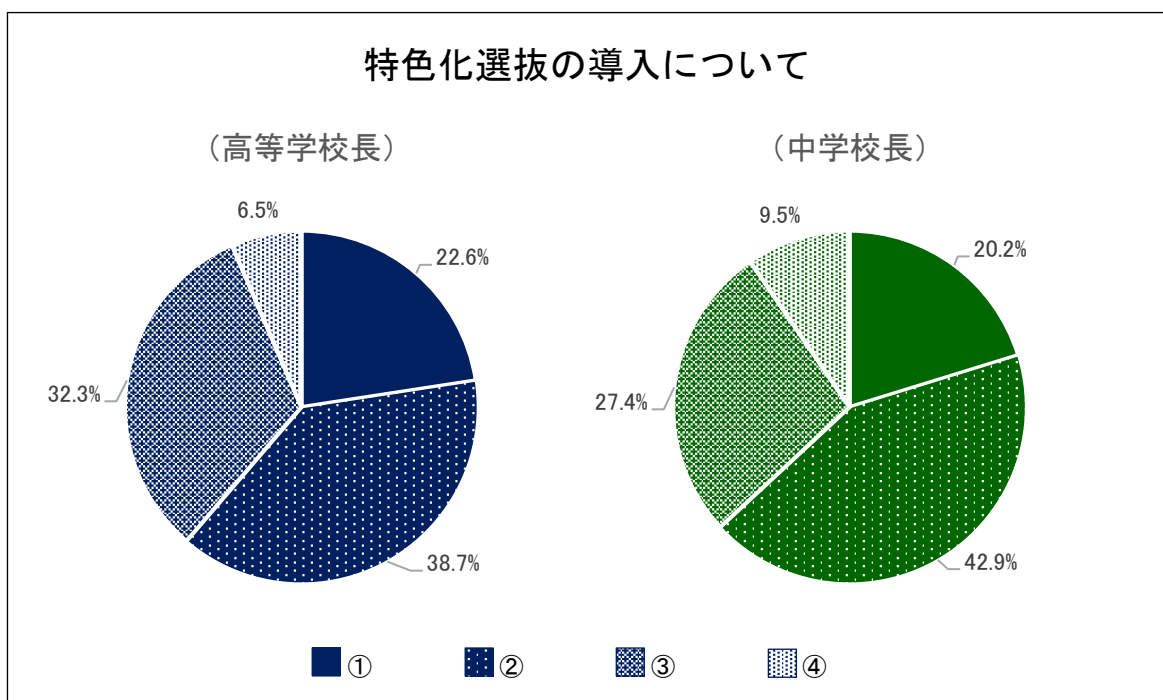
- ① よいと思う
- ② どちらかといえばよいと思う
- ③ どちらかといえばよくないと思う
- ④ よくないと思う



設問3 他県においてすでに実施している特色化選抜の導入について、どう思いますか。ご自身の考えに最も近いものを1つ選んでください。

※ 特色化選抜とは、志願者の目的意識や主体性をより重視する選抜方法のことで、志願者は、熱心に取り組んできたことや、志願先高等学校が示す「求める生徒像」に向けて努力したことを生かして受験することができます。また、各高等学校は、各校が実施する検査や志願理由書等を通して、「目的意識」や「学びに向かう力」、「思考力、判断力、表現力等」を総合的に判断します。

- ① 導入した方がよいと思う
- ② どちらかといえば導入した方がよいと思う
- ③ どちらかといえば導入しない方がよいと思う
- ④ 導入しない方がよいと思う



設問2-1【中学校長のみ】

設問2で「① よいと思う」又は「② どちらかといえばよいと思う」と回答した方にお聞きします。その理由について、記入してください。

- 日程的にはタイトですが、授業進度や卒業式との関係を考えて、現状の方法がベターと考えます。これまでも、様々な考えで入試方法が変遷してきましたが、結局推薦制度前の日程や方法に戻ったことから、現状がベターと考えています。
- 入試が早く終わると卒業までの時間を持て余し、校内での秩序が保たれない可能性が大いに考えられる。現時点でも、私立合格者の中にはそういった傾向がみられる。
- 以前のように前期選抜でほとんどの合格者を出すとその後の学習に身が入らない。また、後期選抜に残った生徒が大変な思いをすることになる。
- 入試後から卒業に至るまでの期間が長くなればなるほど学習への意欲の低下も大きくなると考えられるため。
- 前倒しにされると、中学校側の授業時数の問題が生じてくる。
- 中学校課程で身につけておくべき内容にかけられる時間をできるだけ多く確保することができる。
- 1～2月に実施となると進路指導計画が1～2ヶ月早まり、現状の様々な学校の取組に影響してくる事が考えられるので、3月に実施が良いと考えます。2月下旬なら可能かとも思いますので、どちらかといえばよいを選択しました。
- 現行の教育課程どおりの学習をしていけば、どうしても3月入試でないこと全ての内容が履修できないため。ただし、教科書の内容をもっと早く終わらせることが可能になれば、入試を早くすることも検討できるのでは。
- 近年の本校の状況から、特段の不具合は生じていないため。ただし、大規模の生徒数が多い中学校では、事務手続き等の過密さなどから、全体の日程を少し早めるなどの配慮が必要かもしれない。

設問2-2【高等学校長のみ】

設問2で「③ どちらかといえばよくないと思う」又は「④ よくないと思う」と回答した方にお聞きします。その理由について、記入してください。

- 1～2月に推薦入試のような学校の特色が生かされる多様な入試形態が必要ではないかと考える。
- 現行の入試日程は、私立や他県の公立高校の入試日程に比べて遅いため、私立に行く生徒や県外生徒もすでに他県の高校入試が終わっており確保が難しくなるため。
- 設問1にあったように、県外生の入学割合を設定するならば、3月では遅すぎ、受験を敬遠されるのではないかと思う。
- もう少し早めに実施することで、新年度の準備（新入生支援情報聞き取り等）に充てたい。
- A日程は私立、高専との関係、高校教員の業務（卒業式、入試業務、在校生の年度末の成績処理、指導要録など）が大変多忙でミスが許されない内容がこの時期重なりすぎる。中学3年生の進路選択の幅を広くという思いはわかりますが。
- 3月に入試業務が集中し、入試を中心として行事予定を組まなければならない。この間の学校業務が滞ることがある。入試業務は確認作業が多く、慎重に行う必要があることから時間を要するため、分散して欲しい。
- C日程がかなり遅い時期の実施となっているので、年度末及び年度初めの業務に支障をきたすことが想定される。
- 特にC日程が年度末ギリギリなので、人事異動になった先生の場合、住居を移動しないといけない場合は準備期間が少なすぎる。

設問2-3【高等学校長のみ】

設問2で「③ どちらかといえばよくないと思う」又は「④ よくないと思う」と回答した方にお聞きします。公立高校入試のA日程、B日程、C日程をそれぞれの時期に実施した方がよいと思うか、記入してください。

- 1～2月推薦入試(定員の一部分)、3月A又はB日程、C日程
- それぞれの日程を1週間程度早めての実施。
- A日程を2月20日前後、B日程を現在のA日程の時期、C日程を現在のB日程の時期
- A日程の始まりを2月として2～3週間おきに実施したほうがよい。また、A日程一回の試験の結果のうち全部または理科・社会についてはB日程、C日程に生かしてもいいのではないかと。B、C日程では学科に応じた教科もしくは英・数・国に限定して実施してはどうか。
- 他県の状況調査したうえで、A、B、Cそのものの制度の見直しをお願いしたい。

設問3-1【中学校長・高等学校長共通】

設問3で「① 導入した方がよいと思う」又は「② どちらかといえば導入した方がよいと思う」と回答した方にお聞きします。特色化選抜をどの時期に実施した方がよいと思うか、記入してください。

なお、記入にあたっては、現行のA日程、B日程、C日程の実施時期に関わらず、特色化選抜の実施時期として適切だと考えられる時期を記入してください。

【中学校長】

- 時期は同じで、現行の日程が良い。
- 個に応じた教育が求められている以上、早い段階での選抜を望みます。
- 私学や国立の推薦入試と同等な位置づけとし、12月か1月に実施すると良い。
- 特色化選抜を志願する生徒は、早い段階から目的意識も高いと思われるため1月下旬が望ましいと考えます。不合格になった場合もA日程までには時間があり、気持ちを切り替えられると考えます。
- A日程の前に実施(1月) ※結果判明後にA日程に出願可能である時期
- 特色化選抜で不合格になった生徒が再度、同一校を受験できることは一定必要かと感じます。そう考えると、A日程よりは早い時期に実施することが必要になるかと思えます。そうなる前に実施していた推薦入試等と同じような考え方になるのではないかと思います。
- 1月末までにはやるべきと思う。
- A日程前の2月頃が良いと思う。あまりに早すぎると、入学までの学習が継続しづらくなり、入学後の学力面が心配である。
- 2月中旬に行う。また、一定の学力検査を実施したら良いと考える。
- 特性を持った生徒やこれからの時代を生きる子どもたちのことを考えて、また、形骸化された、面接試験の改善(自分がやってきことのアピールを活かせる)にもつながる。面接試験に時間をかけても2日間で影響なければ、今と同じでもいいのでは。
- 知識技能をはかるテスト以外のこのような内容のテストも大切だと考える。

【高等学校長】

- 12月か1月(入試が現在の3月にある場合)
- 私立の入試に合わせる。
- 諸々を勘案すると、1月実施が妥当だと考えられる。
- A日程の前に実施する(2月中旬ごろ)
- 県内全体への募集でなく、地域みらい留学制度を活用している学校において、県外特別枠の試験を他県の一般入試よりも早い時期に設定して、県外生徒の確保に努める。

設問3-2【中学校長・高等学校長共通】

設問3で「③ どちらかといえば導入しない方がよいと思う」又は「④ 導入しない方がよいと思う」と回答した方にお聞きします。その理由について、記入してください。

【中学校長】

- 合格と不合格の基準が明確にわかれば問題はないかと思うが、現状でも志願理由書を出しているので必要を感じない。
- 合否の判断基準について、中学校側は判断しにくい状態になると思われる。
- 中学校の段階で、求める生徒像をどこまで理解し、自分の適性進路に合っているかは難しいと思います。自己推薦の時代の反省を振り返って、合否の判定基準や入試内容、生徒の意識や取り組み方などを総合的に考える必要があると思います。
- 従前の推薦入試を思い出したから。特色化選抜の合格者数を絞り大多数が筆記試験で合格する内容なら良いかもしれないと考えます。
- 以前、自己推薦型の高校入試が行われていた時、願書を提出したことによって、合格できるかもしれないと考え、学習面がおろそかになった生徒も多かった。もし導入するのであればできるだけ、目的意識を明確にして、何かに特化した内容で、募集人員を少なくしてほしい。
- 以前あった推薦制度のように、学校間での温度差が必ず出てくる。最初から勉強は置いといて、特色選抜1本でチャレンジして合格できると勘違いする者が出てくる。実施するならば、学力審査も必須にするべき。
- 特色化選抜が本来の目的に反して、一般選抜試験を回避するための手段として活用されるようにならないか懸念される。
- 生徒は自分をアピールできる生徒とそれが苦手な生徒に分かれています。こういった形でアピールすることが進路確定に近づくという考えが、そういった生徒への新たな心理的負担と不安につながると心配します。広島県で導入を進めていると聞きましたが、そういった点での情報も提供していただけたらと思います。

【高等学校長】

- 現行の入試も、総合的判断により合否を決定している。学力検査により、学力の状況は把握しておきたい。
- 特色化選抜では各校で独自で選抜基準を定め、選考も各校で自由に行うという裁量権があるのかどうか、また、各中学校が各高校の選抜基準を十分把握できるかが不安な点である。
- 学校規模が大きく、教職員の数が多い学校と比べると、職員数の少ない中山間の学校においては、一人の教員にかかる仕事量が増えることを含め、準備等に負担がかかる恐れがある。
- 今の選抜方法で、志願者の目的意識や主体性を十分に図ることができていると思う。また、A日程、B日程、C日程に加えての新たな制度ならば業務負担が大きい。
- 現行に加えての実施は負担が大きい。

設問4【中学校長・高等学校長共通】

現行の入試制度に関する課題や改善点等について、ご意見等があれば記入してください。
(実施時期、選抜方法、事務手続、県外からの志願承認など)

【中学校長】

- 高校の卒業式(3月1日)のように、曜日に関係なく入試日を固定してもらいたい。
- 入試制度をA日程・B日程・C日程とせず、A日程のときに第1希望・第2希望まで記載し、第1希望校が不合格になれば、第2希望校へ入試の成績を回して、合否を決定する。その方法をとるなら、現行のB日程は廃止し、C日程のみ残す。また、同一校での第1希望・第2希望を選択した場合は、第2希望校は選択できないとする。
- 公立高校入試が全国学調や県版学テの延長線上にある系統だったものになっているのか。また、県下統一模試など塾に頼っている風潮が高知県にはあると感じるが、県としてそれで良いものなのかと思う。
- 特色化選抜のように目的意識や主体性をもたせる選抜方法になればと思う。また、入試問題等も学習指導要領の内容を反映した、全国学調のような内容になればと思う。
- 時間的に難しいことかと思いますが、面接時間をもう少し長くしていただき、生徒の人の柄やコミュニケーション力等を見ていただきたいと思います。
- 面接方法を従来のものとは違う形にして、そこで、中学時代に頑張ってきたことや、高校時代にやりたいこと、将来に向けての夢などを、自らプレゼン(タブレット端末を利用して)する方式にしてみてもどうかと思う。一方的に面接官からの質問に、事前に暗記したものを答える面接ではなく、プレゼン面接があることが事前にわかっているならば、日々の中学校での色々な学びも意識して取り組めるのではないかと考える。
- 今求められている資質能力をどうやって測るのか。どうしても知識重視の教科もあるので、授業を大きく変えていくことが難しいと思う。入試にグループ協議とか共同制作、討論、タブレットを使っただけの試験などは高校入試には難しいと思うので、授業も入試に向けてのものになっても仕方がない面もある。時期、手続きは現行のままでいいと思う。
- 志願者数と定員合計の差が大きすぎる。
- 教師の配置の数に関わってくると思いますが、あまりにも定員が多すぎて、受験生とのバランスが取れていない。高校にもう少し特色ある高校をつくり、定員数も少子化に合わせて削減すべきだと思う。このままでは勉強をしない中学生、高校生がたくさん出てくるように思う。
- 近年は少子化の影響もあり、定員オーバーをする学校がほとんどない状態である。定員内不合格を出さない取り組みもわかるが、あまりにも極端であれば、次年度の入試にも影響し中学校にとっても、あまり良い影響をあたえないのではないかと心配な面はある。
- 県内の生徒数も年々減少している中で、ある程度の学校数を維持するためにも、県外からの入学生を積極的に受け入れていく必要がある。
- 県外からの山村留学生で高知県内の中学校を卒業予定の生徒については、公立高校の受験を可能にしてほしい。
- 今後、入試における特別措置(特に合理的配慮にかかる内容)を要する生徒が増加することが予想されます。本校では定期テストにおけるパソコン入力の要望があり、今後検討していくことにしています。現在の対応[拡大・ルビ振り・時間延長(最長+15分)・読み上げ(本人の希望があれば)]を実施しています。個別の対応が必要な生徒が増加した際、さまざまな課題が生じることが予想されます。
- 不登校の生徒が増加しています。不登校であっても、高等学校進学には意欲を持っている生徒も多数います。入試に当たって、不登校生徒の扱いについて明確にできない部分が多いかとも思いますが、県教委としての考え方を非公式にでも中学校長にお伝えいただく機会があればと思います。
- さらにユニバーサルな視点に基づいて実施していただければと思います。

【高等学校長】

- 連携型中高一貫教育校においては、地域ごとに特色ある入試を実施すればどうか。(入試というよりは多様な選抜方法を用いる等)
- 設問2-2で記述していますが、入試を3月に集中すると業務が多く、学校業務と並行もしくは入試業務優先となるため、2月、3月に分散していただきたい。また、3月は年度末による進路指導、生徒指導・支援、教科・資格等の補習、異動による引継ぎ、新入生を迎える準備等、生徒、教職員の多様な時期であることも考慮していただくとありがたいです。
- B日程の時期をもう少し早めてもらいたい。また、志願先変更期間について検証してもらいたい。
- 年度末に業務が集中するため、人事異動と含めて1週間程度早めてもらいたい。また、入試採点業務に自動採点システム導入を検討してはどうでしょうか。
- 中学校の実情から考えると今の試験実施時期でよい。選抜方法は試験の問題数、種類は再検討をするべき時期であると考え。事務手続等は、ネット申込を導入してもよいのではないかと思う。
- 入学定員と充足率を検討し、各校の実情を聞く場を設定するということをしてはいかがでしょうか。
- 学区制については、一度議論してもいいのではないかと思います。
- 県外からの志願者の受け入れについて、承認条件の緩和。
- 9割の高校が定員割れをしている現状を勘案すると県外や海外から積極的に受けて入れても問題はないと考える。できるだけ簡便な手続きにしていきたい。
- 県外からの生徒の募集について、高知県の費用を使って生徒を育て、県外に帰すことに、本県としてどんなメリットがあるのか、根本的に見直す必要があるのではないか。その費用をもっと県内高校生のために活用すべき(教員数の確保など)では、と考えています。特別な配慮を必要とする生徒が普通高校に入学し、教職員の業務負担となっている。入試制度の見直しなど、早急に検討していただきたい。

高知県公立高等学校入学者選抜 合格者数等の状況（課程別）

資料 3 - 7

1 全体 (人)

	H27			H28			H29			H30			H31			R2			R3			R4			R5		
	入学定員	合格者総数	定員充足率	入学定員	合格者総数	定員充足率	入学定員	合格者総数	定員充足率	入学定員	合格者総数	定員充足率	入学定員	合格者総数	定員充足率	入学定員	合格者総数	定員充足率	入学定員	合格者総数	定員充足率	入学定員	合格者総数	定員充足率	入学定員	合格者総数	定員充足率
全日制	5,410	4,250	78.6%	5,410	4,285	79.2%	5,370	4,288	79.9%	5,330	4,084	76.6%	5,330	3,993	74.9%	5,330	3,831	71.9%	5,090	3,655	71.8%	5,090	3,677	72.2%	5,090	3,577	70.3%
多部制	360	192	53.3%	360	175	48.6%	240	112	46.7%	200	123	61.5%	200	118	59.0%	200	94	47.0%	200	86	43.0%	200	96	48.0%	200	75	37.5%
定時制	520	81	15.6%	520	75	14.4%	560	68	12.1%	560	51	9.1%	560	49	8.8%	560	39	7.0%	560	40	7.1%	560	45	8.0%	560	47	8.4%
合計	6,290	4,523	71.9%	6,290	4,535	72.1%	6,170	4,468	72.4%	6,090	4,258	69.9%	6,090	4,160	68.3%	6,090	3,964	65.1%	5,850	3,781	64.6%	5,850	3,818	65.3%	5,850	3,699	63.2%

※全日制的合格者総数には、併設中学校から併設高等学校への進学者数を含む。

2 全日制 (人)

	H27			H28			H29			H30			H31			R2			R3			R4			R5		
	募集定員	受検者数	合格者数	募集定員	受検者数	合格者数	募集定員	受検者数	合格者数	募集定員	受検者数	合格者数	募集定員	受検者数	合格者数	募集定員	受検者数	合格者数	募集定員	受検者数	合格者数	募集定員	受検者数	合格者数	募集定員	受検者数	合格者数
A日程	5,410	4,131	3,745	5,410	4,194	3,752	5,370	4,136	3,770	5,330	3,933	3,618	5,330	3,784	3,524	5,330	3,665	3,385	5,090	3,476	3,209	5,090	3,492	3,177	5,090	3,406	3,172
連携型		126	117		101	92		117	108		92	89		109	107		95	91		78	77		117	115		71	71
B日程	1,339	285	178	1,366	325	238	1,275	263	193	1,396	196	149	1,484	178	147	1,666	201	170	1,594	191	160	1,590	198	170	1,657	173	145
計			4,040			4,082			4,071			3,856			3,778			3,646			3,446			3,462			3,388

※連携型中高一貫教育校に係る特別選抜の募集定員については、入学定員内とし、特に定めない。

3 (1) 多部制単位制（昼間部） (人)

	H27			H28			H29			H30			H31			R2			R3			R4			R5		
	募集定員	受検者数	合格者数	募集定員	受検者数	合格者数	募集定員	受検者数	合格者数	募集定員	受検者数	合格者数	募集定員	受検者数	合格者数	募集定員	受検者数	合格者数	募集定員	受検者数	合格者数	募集定員	受検者数	合格者数	募集定員	受検者数	合格者数
A日程	200	152	124	200	139	118	120	96	89	120	99	92	120	117	97	120	76	69	120	78	70	120	87	74	120	66	53
B日程	76	21	18	82	22	14	31	4	2	28	8	6	23	5	2	51	19	15	50	11	8	48	15	9	67	9	6
計			142			132			91			98			99			84			78			83			59

(2) 多部制単位制（夜間部） (人)

	H27			H28			H29			H30			H31			R2			R3			R4			R5		
	募集定員	受検者数	合格者数	募集定員	受検者数	合格者数	募集定員	受検者数	合格者数	募集定員	受検者数	合格者数	募集定員	受検者数	合格者数	募集定員	受検者数	合格者数	募集定員	受検者数	合格者数	募集定員	受検者数	合格者数	募集定員	受検者数	合格者数
B日程	160	51	42	160	39	32	120	19	14	80	21	18	80	19	14	80	9	5	80	4	4	80	15	12	80	16	13
C日程	79	15	8	128	16	11	106	10	7	62	12	7	66	10	5	75	6	5	76	5	4	68	5	1	67	5	3
計			50			43			21			25			19			10			8			13			16

4 定時制 (人)

	H27			H28			H29			H30			H31			R2			R3			R4			R5		
	募集定員	受検者数	合格者数	募集定員	受検者数	合格者数	募集定員	受検者数	合格者数	募集定員	受検者数	合格者数	募集定員	受検者数	合格者数	募集定員	受検者数	合格者数	募集定員	受検者数	合格者数	募集定員	受検者数	合格者数	募集定員	受検者数	合格者数
B日程	520	84	52	520	78	46	560	72	47	560	50	34	560	44	35	560	34	29	560	33	31	560	35	32	560	39	33
C日程	468	53	29	474	41	29	513	42	21	526	25	17	525	16	14	531	13	10	529	10	9	528	17	13	527	16	14
計			81			75			68			51			49			39			40			45			47

<県立高等学校の改編等による入学定員の変更について>

H29	○ 安芸高等学校(全日制)及び宿毛高等学校(全日制)において、各1学級減(各40人減)となった。 ○ 須崎工業高等学校(全日制)において、学科改編により4科から3科6専攻に変更となり、40人減となった。
H30	○ 大方高等学校において、多部制単位制(昼間部)(80人)が全日制に、多部制単位制(夜間部)(40人)が定時制に、それぞれ改編された。
R3	○ 安芸桜ヶ丘高等学校(全日制)の環境エネルギー科及び高知北高等学校(多部制単位制(夜間部))の衛生看護科が募集停止となった。 ○ 高知南高等学校(全日制)及び高知西高等学校(全日制)が募集停止となり、高知国際高等学校(全日制)が募集開始となった。

令和5年度 高知県公立高等学校入学者選抜 合格者数等の状況 (学校別)

1 全日制

学校名	学科(科)名	入学定員	A日程			B日程			合格者総数	空き定員	入学許可者数	定員充足率	
			志願者数	受検者数	合格者数	B日程定員	志願者数	受検者数					合格者数
室戸	総合	80	52	52	49	31	1	1	0	49	31	49	61.3%
安芸	普通	120 (81)	54	54	54	27	2	2	2	95	25	95	79.2%
	工業 (機械土木科)	20 (18)	5	5	4	14	0	0	0	6	14	6	30.0%
	工業 (機械専攻)												
	工業 (土木専攻)	20 (18)	3	3	2	16	0	0	0	4	16	4	20.0%
商業 (ビジネス科)	40 (32)	14	14	13	19	0	0	0	20	20	20	50.0%	
城山	普通	80	22	22	19	61	8	8	6	25	55	25	31.3%
山田	普通	80	64	64	59	21	2	2	2	61	19	61	76.3%
	探究 (グローバル探究科)	80	7	6	7	74	2	2	2	9	71	9	11.3%
	商業 (ビジネス探究科)	40	21	21	24	16	3	3	3	27	13	27	67.5%
嶺北	普通	80	10	10	10	53	0	0	0	27	53	27	33.8%
	<連携型中高一貫教育校に係る特別選抜>	[入学定員内]	17	17	17								
高知農業	農業 (農業総合科)	40	40	40	38	2	0	0	0	38	2	38	95.0%
	農業 (畜産総合科)	40	29	29	29	11	0	0	0	29	11	29	72.5%
	農業 (森林総合科)	40	15	15	14	26	1	1	0	14	26	14	35.0%
	農業 (環境土木科)	40	19	19	19	21	0	0	0	19	21	19	47.5%
	農業 (食品ビジネス科)	40	42	42	40	なし				40	0	40	100.0%
高知東工業	農業 (生活総合科)	40	38	37	36	4	2	2	2	38	2	38	95.0%
	工業 (機械科)	40	38	38	38	2	1	1	1	39	1	39	97.5%
	工業 (機械生産システム科)	40	10	10	10	30	2	2	2	12	28	12	30.0%
	工業 (電子科)	40	16	16	16	24	2	2	2	18	22	18	45.0%
岡豊	工業 (電子機械科)	40	17	17	17	23	3	3	3	20	20	20	50.0%
	普通	240	187	186	184	56	35	35	35	219	21	219	91.3%
	普通 (芸術コース)	40	23	23	22	18	3	3	2	24	16	24	60.0%
高知東	普通 (体育コース)	40	37	37	32	8	1	1	0	32	8	32	80.0%
	総合	200	210	208	200	なし				200	0	200	100.0%
高知工業	看護 (看護科)	30	33	33	30	なし				30	0	30	100.0%
	工業 (機械科)	40	37	35	37	3	1	1	1	38	2	38	95.0%
	工業 (電気科)	40	44	44	40	なし				40	0	40	100.0%
	工業 (情報技術科)	40	39	37	36	4	0	0	0	36	4	36	90.0%
	工業 (工業化学科)	40	32	32	38	2	2	2	2	40	0	40	100.0%
	工業 (土木科)	40	40	40	40	なし				40	0	40	100.0%
	工業 (建築科)	40	55	52	40	なし				40	0	40	100.0%
工業 (総合デザイン科)	40	53	52	40	なし				40	0	40	100.0%	
高知追手前	普通	280	235	234	234	46	1	1	1	235	45	234	83.6%
吾北分校	普通	40	10	9	9	31	2	2	2	11	29	11	27.5%
	普通	140	190	189	140	なし				140	0	140	98.0%
高知丸の内	<チャレンジ選抜A>	10	8	8	7					7	3	7	
高知小津	音楽 (音楽科)	30	12	12	12	18	0	0	0	12	18	12	40.0%
	普通	240	227	222	222	19	9	8	6	228	12	228	95.0%
高知国際	理数 (理数科)	40	28	26	25	15	0	0	0	25	15	25	62.5%
	普通	200 (152)	195	194	152	なし				200	0	200	100.0%
	国際 (グローバル科) 探究コース	80 (26)	15	15	21	5	0	0	0	75	5	75	93.8%
伊野商業	国際 (グローバル科) DPコース	[20] ([若干名])	[3]	[3]	[1]	[若干名]	[0]	[0]	[0]	[1]			
	商業 (キャリアビジネス科)	160	105	104	92	68	23	23	16	108	52	108	67.5%
春野	総合	160	120	118	113	47	22	22	19	132	28	132	82.5%
高岡	普通	80	25	24	20	60	4	4	3	23	57	23	28.8%
高知海洋	水産 (海洋学科)	80	28	28	27	53	4	4	3	30	50	30	37.5%
須崎総合	普通	[10]	[2]	[2]	[2]	[8]	[0]	[0]	[0]	[2]	[8]	[2]	
	普通	120	67	66	65	55	10	10	9	74	46	74	61.7%
	工業 (機械系学科)	20	20	20	なし					20	0	20	100.0%
	工業 (機械専攻)												
	工業 (造船専攻)	20	5	5	5	15	1	1	1	6	14	6	30.0%
	工業 (電気情報系学科)	20	3	3	3	17	0	0	0	3	17	3	15.0%
	工業 (電子情報専攻)	20	5	5	5	15	0	0	0	5	15	5	25.0%
工業 (システム工学系学科)	20	10	10	9	11	1	1	1	10	10	10	50.0%	
工業 (機械制御専攻)	20	6	6	5	15	1	1	1	6	14	6	30.0%	
工業 (住環境専攻)	20	6	6	5	15	1	1	1	6	14	6	30.0%	
佐川	普通	80	29	29	29	51	8	8	6	35	45	35	43.8%
窪川	普通	80	23	23	22	58	1	1	0	22	58	22	27.5%
橋原	普通	80	22	22	18	40	5	5	2	42	38	42	52.5%
	<連携型中高一貫教育校に係る特別選抜>	[入学定員内]	22	22	22								
四万十	普通	40	5	4	4	29	0	0	0	11	29	11	27.5%
	<連携型中高一貫教育校に係る特別選抜>	[入学定員内]	7	7	7								
	普通 (自然環境コース)	40	8	8	8	26	0	0	0	14	26	14	35.0%
大方	普通	80	6	6	6								
	普通	80	33	32	30	50	7	6	6	36	44	36	45.0%
幡多農業	農業 (園芸システム科)	40	19	19	18	22	0	0	0	18	22	18	45.0%
	農業 (アグリサイエンス科)	40	17	17	15	25	0	0	0	15	25	15	37.5%
	農業 (グリーン環境科)	40	16	16	15	25	0	0	0	15	25	15	37.5%
	農業 (生活コーディネート科)	40	22	22	22	18	0	0	0	22	18	22	55.0%
中村	普通	200 (164)	133	132	130	34	1	1	1	167	33	167	83.5%
西土佐分校	普通	40	9	9	8	32	1	1	0	8	32	8	20.0%
	工業 (機械科)	20	7	7	7	13	0	0	0	7	13	7	35.0%
宿毛工業	工業 (機械専攻)	20	13	13	13	7	0	0	0	13	7	13	65.0%
	工業 (自動車専攻)	20	21	20	20	なし				20	0	20	100.0%
	工業 (建設科)	20	15	15	15	5	0	0	0	15	5	15	75.0%
	工業 (電気科)	40	6	6	6	34	0	0	0	6	34	6	15.0%
	工業 (情報技術科)	40	27	27	27	13	0	0	0	27	13	27	67.5%
宿毛	総合	120	63	63	61	59	1	1	1	62	58	62	51.7%
清水	普通	80	1	1	1	60	2	2	2	22	58	22	27.5%
	<連携型中高一貫教育校に係る特別選抜>	[入学定員内]	19	19	19								
県立計		4810 (4621)	3180	3147	2963	1657	175	173	145	3296	1514	3295	68.5%
高知商業	商業 (総合マネジメント科)	140	173	171	140	なし				140	0	140	100.0%
	商業 (社会マネジメント科)	70	83	83	70	なし				70	0	70	100.0%
	商業 (情報マネジメント科)	35	40	39	35	なし				35	0	35	100.0%
	商業 (スポーツマネジメント科)	35	37	37	35	なし				35	0	35	100.0%
市立計		280	333	330	280	0	0	0	0	280	0	280	100.0%
公立計		5090 (4901)	3513	3477	3243	1657	175	173	145	3576	1514	3575	70.2%

資料 3 - 8

2 多部制単位制

学校名	学科(科)名	入学定員 [成人]	A 日程			B 日程			C 日程			合格者総数	空き定員	入学許可者数 [成人]	定員充足率		
			志願者数	受検者数	合格者数	B 日程定員 [成人]	志願者数 [成人]	受検者数 [成人]	合格者数 [成人]	C 日程定員	志願者数					受検者数	合格者数
中 芸	普通 (昼間部)	40	10	10	8	32	3	3	1				9	31	9	22.5%	
	普通 (夜間部)	40 [4]				40 [4]	5 [0]	5 [0]	4 [0]	36	4	4	2	6	34	6 [0]	15.0%
高知北	普通 (昼間部)	80	59	56	45	35	6	6	5				50	30	50	62.5%	
	普通 (夜間部)	40 [4]				40 [4]	13 [1]	11 [0]	9 [0]	31	1	1	1	10	30	10 [0]	25.0%
県立計		200 [8]	69	66	53	147 [8]	27 [1]	25 [0]	19 [0]	67	5	5	3	75	125	75 [0]	37.5%

3 定時制

学校名	学科(科)名	入学定員 [成人]	A 日程			B 日程			C 日程			合格者総数	空き定員	入学許可者数 [成人]	定員充足率		
			志願者数	受検者数	合格者数	B 日程定員 [成人]	志願者数 [成人]	受検者数 [成人]	合格者数 [成人]	C 日程定員	志願者数					受検者数	合格者数
室 戸	普通	40 [4]				40 [4]	3 [0]	3 [0]	3 [0]	37	0	0	0	3	37	3 [0]	7.5%
山 田	普通	40 [4]				40 [4]	4 [0]	4 [0]	4 [0]	36	0	0	0	4	36	4 [0]	10.0%
高知東工業	工業 (機械科)	40 [4]				40 [4]	1 [0]	1 [0]	1 [0]	39	1	1	1	2	38	2 [0]	5.0%
高知工業	工業 (機械科)	40 [20]				40 [20]	1 [0]	1 [0]	1 [0]	39	0	0	0	1	39	1 [0]	2.5%
	工業 (電気科)	40 [20]				40 [20]	1 [0]	1 [0]	1 [0]	39	2	2	1	2	38	2 [0]	5.0%
	工業 (土木科)	40 [20]				40 [20]	6 [0]	5 [0]	3 [0]	37	1	1	1	4	36	4 [0]	10.0%
	工業 (建築科)	40 [20]				40 [20]	2 [1]	2 [1]	1 [1]	39	0	0	0	1	39	1 [1]	2.5%
高 岡	普通	40 [8]				40 [8]	3 [0]	3 [0]	2 [0]	38	3	3	3	5	35	5 [0]	12.5%
須崎総合	普通	40 [4]				40 [4]	5 [0]	5 [0]	3 [0]	37	2	2	2	5	35	5 [0]	12.5%
佐 川	普通	40 [8]				40 [8]	2 [0]	2 [0]	2 [0]	38	2	2	2	4	36	4 [0]	10.0%
大 方	普通	40 [4]				40 [4]	3 [0]	3 [0]	3 [0]	37	0	0	0	3	37	3 [0]	7.5%
宿 毛	普通	40 [4]				40 [4]	4 [0]	4 [0]	4 [0]	36	0	0	0	4	36	4 [0]	10.0%
清 水	普通	40 [4]				40 [4]	1 [0]	1 [0]	1 [0]	39	0	0	0	1	39	1 [0]	2.5%
県立計		520 [124]				520 [124]	36 [1]	35 [1]	29 [1]	491	11	11	10	39	481	39 [1]	7.5%
高知商業	商業 (商業科)	40 [4]				40 [4]	4 [0]	4 [0]	4 [0]	36	5	5	4	8	32	7 [0]	17.5%
公立計		560 [128]				560 [128]	40 [1]	39 [1]	33 [1]	527	16	16	14	47	513	46 [1]	8.2%

【全日制について】

- (注1) 安芸、高知国際、中村の入学定員における()内の数字は、A日程の募集定員を示したものである。
- (注2) 安芸、高知国際、中村の合格者総数には、併設中学校からの進学者数を含む。
- (注3) 高知国際のDPコース、高知海洋の船舶職員養成課程の[]内の数字は、内数を示す。
- (注4) 嶺北、橋原、四万十、清水の合格者総数には、連携型中高一貫教育校に係る特別選抜における合格者数を含む。
- (注5) A日程の合格者数には、A日程の追検査による合格者を含む。

【多部制単位制及び定時制について】

- (注1) []内の数字は、成人特別選抜に係る内数を示す。

令和6年度 A日程等志願先変更後の状況（学校別）

No.1 全日制

(令和6年2月8日)

学 校 名	学 科 (科) 名	入学定員	募集定員	第1志望者数		志願率	第2志望者数
				学校計			
室 戸	総 合	80	80	26	26	0.33	
安 芸	普 通	120	89	29		0.33	3
	工 業 (機士)	20	19	2		0.11	6
	工 業	20	20	6		0.30	5
	商 業 (ビジネス)	40	36	25	62	0.69	11
城 山	普 通	80	80	22	22	0.28	
山 田	普 通	80	80	47		0.59	17
	探 究 (グローバル)	80	80	13		0.16	1
	商 業 (ビ探)	40	40	16	76	0.40	36
嶺 北	普 通	80	80	11 注3	11	0.14	
高知農業	農 業 (農総)	40	40	48		1.20	25
	農 業 (畜総)	40	40	42		1.05	33
	農 業 (森総)	40	40	25		0.63	37
	農 業 (環土)	40	40	21		0.53	27
	農 業 (食ビ)	40	40	39		0.98	44
	農 業 (生総)	40	40	56	231	1.40	22
高知東工業	工 業 (機械)	40	40	41		1.03	7
	工 業 (機械ソ)	40	40	9		0.23	32
	工 業 (電子)	40	40	32		0.80	17
	工 業 (電機)	40	40	15	97	0.38	30
岡 豊	普 通	240	240	235		0.98	20
	普 通 (芸術コース)	40	40	28		0.70	13
	普 通 (体育コース)	40	40	35	298	0.88	40
高知東	総 合	200	200	183		0.92	13
	看 護 (看護)	30	30	25	208	0.83	0
高知工業	工 業 (機械)	40	40	53		1.33	23
	工 業 (電気)	40	40	44		1.10	44
	工 業 (情技)	40	40	53		1.33	22
	工 業 (工化)	40	40	34		0.85	85
	工 業 (土木)	40	40	37		0.93	48
	工 業 (建築)	40	40	53		1.33	5
	工 業 (総デ)	40	40	28	302	0.70	31
高知追手前	普 通	280	280	199	199	0.71	
吾北	普 通	40	40	11	11	0.28	
高知丸の内	普 通	140	140	145		1.04	1
		10	10	7		0.70	
	音 楽 (音楽)	30	30	6	158	0.20	4
高知小津	普 通	240	240	253		1.05	22
	理 数 (理数)	40	40	26	279	0.65	104
高知国際	普 通	200	200	250		1.25	5
	国 際 (グローバル)	80	若干名	9	259		25
		[20]	[若干名]	[2]			[0]
伊野商業	商 業 (キャリア)	160	160	116	116	0.73	
春 野	総 合	160	160	132	132	0.83	
高 岡	普 通	80	80	30	30	0.38	
高知海洋	水 産 (海洋)	80	80	24	24	0.30	
	船舶職員養成課程	[10]	[10]	[5]		0.50	
須崎総合	普 通	120	120	62		0.52	3
	工 業 (機械系)	20	20	26		1.30	6
	工 業	20	20	8		0.40	12
	工 業 (電情系)	20	20	8		0.40	7
	工 業	20	20	9		0.45	15
	工 業 (シ工系)	20	20	3		0.15	13
	工 業	20	20	15	131	0.75	9
佐 川	普 通	80	80	22	22	0.28	
窪 川	普 通	80	80	28	28	0.35	
構 原	普 通	80	80	33 注3	33	0.41	
四 万 十	普 通	40	40	5 注3		0.13	3
	普 通 (自環コース)	40	40	5 注3	10	0.13	5

(注1) 高知国際高校グローバル科D Pコース、高知海洋高校船舶職員養成課程の [] は内数

(注2) 志願率=第1志望者数÷募集定員
高知国際高校グローバル科の志願率は、募集定員を若干名としていることから、記載しない。

(注3) 嶺北、構原、四万十、清水は、A日程と同時に連携型中高一貫教育校に係る特別選抜を実施する。

資料 3 - 9

No. 2 全日制

学校名	学科(科)名	入学定員	募集定員	第1志望者数		志願率	第2志望者数
					学校計		
大方	普通	80	80	35	35	0.44	
幡多農業	農業(園芸)	40	40	23		0.58	15
	農業(アグリ)	40	40	12		0.30	12
	農業(グリーン)	40	40	19		0.48	10
	農業(コデイト)	40	40	31	85	0.78	4
中村	普通	200	150	127	127	0.85	
	西土佐 普通	40	40	3	3	0.08	
宿毛工業	工業(機械)	20	20	9	108	0.45	8
	工業(自動車)					20	20
	工業(建設)	20	20	23		1.15	4
	工業(土木建築)					20	20
	工業(電気)	40	40	9		0.23	12
	工業(情技)	40	40	32		0.80	5
宿毛	総合	120	120	63	63	0.53	
清水	普通	80	80	0	0	志願者なし	
県立計		4810	4644	3186		0.69	1027
高知商業	商業(総合マネ)	140	140	192		1.37	61
	商業(社会マネ)	70	70	86		1.23	120
	商業(情報マネ)	35	35	42		1.20	60
	商業(スポマネ)	35	35	37	357	1.06	8
市立計		280	280	357		1.28	249
合計		5090	4924	3543		0.72	1276

多部制単位制

学校名	学科名	入学定員	募集定員	第1志望者数		志願率	第2志望者数
					学校計		
中芸	普通(昼)	40	40	15	15	0.38	
高知北	普通(昼)	80	80	65	65	0.81	
合計		120	120	80		0.67	

(注1) 志願率=第1志望者数÷募集定員

令和6年度 連携型中高一貫教育校に係る特別選抜志願者等の状況(学校別)

学校名	学科(科)名	入学定員	募集定員	第1志望者数		志願率	第2志望者数
					学校計		
嶺北	普通	80	80	30	30	0.38	
檮原	普通	80	80	17	17	0.21	
四万十	普通	40	40	1		0.03	0
	普通(自環コース)	40	40	1	2	0.03	0
清水	普通	80	80	40	40	0.50	
合計		320	320	89		0.28	0

(注1) 連携型中高一貫教育校に係る特別選抜の募集定員は、入学定員内とし、特に定めない。

(注2) 志願率=第1志望者数÷募集定員

他県における公立高等学校入学者選抜について

◇ 令和6年度入試における選抜方法等（全日制及び定時制の選抜方法等に関する主な内容）

県名	選抜方法（下線：全日制のみ）	募集人員	検査内容等（◎印：全員対象、○印：学校・学科による）	実施時期	県外生徒の受入れ
鳥取県	(1) 特色入学者選抜	定員の50%以内 ※校長が特に必要と認める場合は、県教委と協議のうえ定める	◎面接又は口頭試問、志望理由書、実施校が定める出願書類、調査書 ◎学力検査、作文又は小論文、プレゼンテーション及び実技検査のいずれか一つ以上	2月1日	<対象者> ○隣接県の指定地域から一部の高校への志願者 ○県内居住で県外の中学校を卒業した者 ○県外居住で県外からの通学を前提とする者 <人数制限等> ○特色入学者選抜において、一部の高校で合格者数の程度（定員の内数）を定めている
	(2) 一般入学者選抜	定員から(1)の入学確約者数を除いた数 ※入学辞退者があった場合は繰上合格あり	◎学力検査、面接、調査書 ○作文、実技検査	3月5・6日	
	(3) 再募集入学者選抜	欠員数	◎面接、調査書 ○学力検査、作文、実技検査 ※(2)の学力検査結果を利用可能	3月25日	
島根県	(1) 推薦入学者選抜	定員の40%程度まで	◎面接、個人調査報告書等 ○作文、実技検査等	1月中旬～下旬	<対象者> ○身元引受人制度の活用による志願者 <人数制限等> ○松江市内、出雲市内、分校、定時制課程は原則として合格者数4名以内 ○上記以外の高校は合格者数4名を超えて各校で定めることができる
	(2) 中高一貫教育校(連携型)に係る入学者選抜	定員内で各実施校が定める	◎面接、自己報告書 ○個人調査報告書、課題レポート、作文	1月中旬～下旬	
	(3) スポーツ推進指定校推薦入学者選抜	1校1指定競技当たり4名以内	◎面接、書類(校長推薦書、個人調査報告書等)	1月中旬～下旬	
	(4) 一般入学者選抜	定員から(1)～(3)の合格内定者数を除いた数	◎学力検査、個人調査報告書等の諸資料 ○面接、実技検査 ※求める生徒像、選抜において重視する点、傾斜配点等を学校別の募集要項に記載	3月5・6日	
	(5) 第2次募集入学者選抜	欠員数	◎校長が定める(面接、作文、基礎学力をみる検査等)	3月19日	
徳島県	(1) 育成型選抜	(A) 活動重視枠(※各校が定めた分野) ○普通科、理数科、外国語科：定員の7%以内 ○専門学科、総合学科：定員の14%以内	◎学力検査、調査書、活動記録 ◎「実技、意見発表又は口頭試問等」若しくは面接の一つ以上	2月6日	<対象者> ○四国他県の自宅からの通学を予定している者 ○身元引受人制度の活用による志願者 <人数制限等>(計20校) ○定員の25%以内(1校)、定員の20%以内(1校)、5人以内(4校)、3人以内(4校)2人以内(6校)、制限なし(5校) ※学科により人数制限が異なる学校があるため、延べ数では21校となる
		(B) 実績重視枠(※県教委が指定した競技及び分野) ○体育科、芸術科：定員100% ○県教委が定める指定校：別に定める	◎学力検査、実技、意見発表又は口頭試問等、調査書、活動記録 ○面接		
	(2) 連携型選抜	定員の範囲内で別に定める	◎学力検査、面接、志望理由書	2月6日	
	(3) 一般選抜	定員から(1)・(2)の合格者数を減じた数	◎学力検査、面接、調査書 ○実技検査、活動記録	3月5・6日	
(4) 第2次募集選抜	欠員数	◎作文、面接、調査書 ○教科の検査、実技検査、活動記録	3月26日		
香川県	(1) 自己推薦選抜	定員の5～50%以内	◎面接、調査書、自己PR書等 ○総合問題、作文、適性検査(実技等)、自己PR	2月1日	<対象者> ○県外居住で県外の自宅からの通学を予定している者 ○身元引受人制度の活用による志願者 <人数制限等> ○自己推薦選抜及び一般選抜において、合格者数の上限を定めている
	(2) 一般選抜	定員から(1)の合格者数を除いた数	◎学力検査、面接、調査書 ○適性検査(実技等)	3月7・8日	
	(3) 第2次募集	定時制の欠員数	◎基礎学力検査、面接、調査書	3月26日	
	(4) 別日程募集	三木高校定時制の定員から(2)の合格者数を除いた数	◎基礎学力検査、面接	3月26日	
愛媛県	(1) 推薦入学者選抜	○普通科、理数科、国際文理科等：5～15%程度 ○専門学科、総合学科：20～30%程度 ※上記範囲内で各高等学校が定める	◎作文又は小論文、面接又は集団討論、実技テスト、自己アピール書、調査書、推薦書	2月8日	<人数制限等> ○全国募集を行う一部の高校の区域外定員の割合は、10～50%以内(ただし、通学区域内の志願者数の状況により、この割合を超えることができる)
	(2) 一般入学者選抜	全日制の定員から(1)の入学確約者数を差し引いた数、定時制の定員100%	◎学力検査、面接、調査書、学習成績等一覧表 ○実技テスト	3月7・8日	
	(3) 第2次募集	定時制の欠員数	◎学力検査、面接、調査書	3月28日	
高知県	(1) A日程	全日制及び昼間部の定員100%	◎学力検査、面接、志望理由書、調査書 ○実技検査	3月5・6日	<対象者> ○隣接県からの通学による志願者 ○身元引受人制度の活用による志願者 <人数制限等> ○人数制限なし
	(2) 連携型中高一貫教育校に係る特別選抜	定員内			
	(3) チャレンジ選抜A	高知丸の内高校のみ10名			
	(4) B日程	全日制及び昼間部の欠員数、定時制及び夜間部の定員100%	◎学力検査、面接、調査書	3月22日	
	(5) 成人特別選抜	定時制及び夜間部の定員の10～50%			
	(6) C日程	定時制及び夜間部の欠員数			